

比宇厚賀線工事だより



令和 8年 2月 吉日



【受乞橋の工事について】

現在、受乞橋周辺において工事を進めています。

この工事では、川や橋の安全性を高めるため、色々な作業を行っています。

これまでに、川の流れによって形が変わってしまった場所の整形や

川の両側にキレイにブロックを積む作業が完了しました。

現在は、3月の工事完了に向けてラストスパートで頑張っています！安全第一で進めてまいります。

くわしくは
こちら！



工事名：比宇厚賀（停）線外長寿命化

（受乞橋外）工事（補正線越）外

発注者：北海道胆振総合振興局

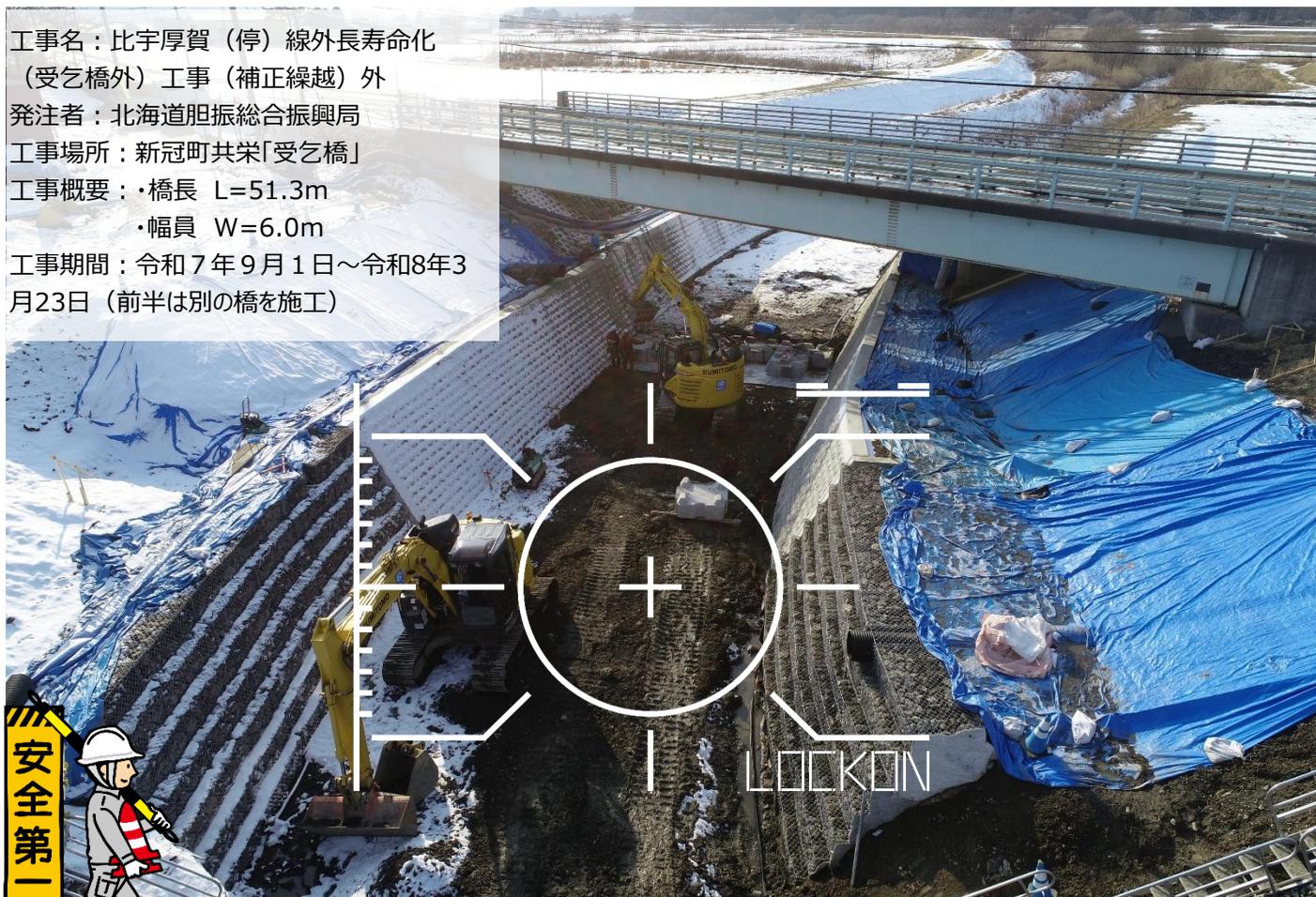
工事場所：新冠町共栄「受乞橋」

工事概要：・橋長 L=51.3m

・幅員 W=6.0m

工事期間：令和7年9月1日～令和8年3

月23日（前半は別の橋を施工）



安全
第一



工事の内容

- ・川の形を整える工事
- ・川岸を保護する工事
- ・川の流れによる洗掘を防ぐ工事
- ・周辺道路の整備工事
- ・既存構造物の撤去工事
- ・工事用の仮設設備の設置・撤去

【現場ホームページから抜粋】 ホームページでは色々な工事状況の様子を見ることができます！ぜひ覗いてみて下さい。

積みブロックのおはなし



見えているのはほんの一部
「貼りつけ」ではなく、「積み上げ」で守る
強固な壁の物語



川の堤防や山の斜面に
ブロックが並んでいるのを見て、
「崖に薄い板を貼っているだけ？」
と思ったことはありませんか？

実は、このブロックの裏側には、
皆様の暮らしを守るための、
計算された
「厚み」と「重さ」が隠されています



①

下には何があるの？

壁の最下部には、分厚いコンクリートのレール（基礎）が敷いてあります。
この「基礎」が、積みあがる壁の重量を支え、地面への沈下を防ぐアンカーの役割を果たしています。



④

なぜ積みブロックは滑り落ちないの？

積みブロックは、崩れないように工夫されています。
内部にコンクリートを充填し、一体化することで安定性を保っています。



②

後ろはどうなっているの？

壁の裏側には、土ではなく、大量の「砂利」を敷き詰めています。
これは雨水をスムーズに排水するためです。
壁が崩れる最大の原因である「水圧」を逃がし、安全性を高めています。



⑤

水はどこへ行くの？

壁の敵は「水」 逃げ道もしっかり確保

壁の所々に小さなパイプ（水抜き穴）があります。
これは、雨水や地下水が壁の裏に溜まり、水圧を押し出すのを防ぐための重要な「安全弁」です。
壁の裏に入れた「裏込砕石」を通して水が集まり、スムーズに外へ排出されるよう計算されています。



さらに本工事では、
川が増水した時に、壁の裏側に川の水が逆流しないように、
浮力を利用した「逆止弁」を設置して逆流しないような仕組みになってい
ます。 フロート式ワイプホール「YS50」(株) トーテックプラス様

土中から染みこんだ水は排出されるが、
増水時、川の水は入り込まない

反対側は、壁の裏の砕石や土がパイプの中に流れ
込まないように、バットフィルターを付けていま
す。

③

見えないところの安全確認

安全な施工のために、ポータブルコーン貫入試験と簡易貫入試験で地盤の硬さを確認しています。
施工前にしっかりと確認しているので安心です。



ポータブルコーン貫入試験



簡易貫入試験

⑥

